

外国語活動, 外国語 (英語) 「見方・考え方」を働かせることができる言語活動の充実

言語活動においては、目的や場面、状況等を意識することが重要です。与えられた話型による対話のみに終始するのではなく、児童生徒が自ら思考・判断し、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、主体的に伝え合うことができるような言語活動を繰り返し経験させることで、必要な資質・能力の育成を目指しましょう。



主体的に伝え合う言語活動を進めるための4ステップ

- ①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。
- ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、見通しを立てる。
- ③目的達成のため、既習事項を想起しながら具体的なコミュニケーションを行う。
- ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。

見・考は児童生徒が見方・考え方を働かせている場面

学習過程の例

小学校6年 NEW HORIZON Elementary Unit 4 Summer Vacations in the World (6 / 8)

《ねらい》過去の表現や既習事項を用いて、夏休みにしたことや感想などについて伝え合うことができる。

①活動の目的や場面、状況等を確認する。

単元末の「夏休みの思い出発表会」に向けて、友達と詳しく伝え合う練習をしよう

②言語材料に音声で十分に慣れ親しんだ上で、話型を基に対話文を作成する。



Hello, Kenji. How was your summer vacation?



I went to Oga. I enjoyed camping. I ate curry and rice.

③-I 友達とペアになり、互いに伝え合う。

中間評価（フィードバック）を行う

ポイント：ジェスチャー、声量などの態度面だけでなく、児童生徒が既習事項を想起し、使える英語を選んだり、組み合わせたりできるような場を設定しましょう。

もっと聞きたくなったことや、言いたいけれど言えなかったことはないかな。より詳しく伝えるための言い方をこれまでの学習から考えてみよう。「～できる」という表現を使っている人もいたね。

見・考



繰り返す言い方も使えるな。何カレーを食べたんだろう？自分で作ったのかな？

料理が好きで、上手にできることとか…。おいしかったこととか。料理はcooking, I can...を使うとcookになるはずだ！



見・考

③-II 相手の話したことにに対して適切に応じながら、会話の流れを大切にしたり取りを行う。

ポイント：話型にとらわれず、使用する言語材料について教師からの提示がなくても児童生徒が既習事項を積極的に活用し、考えや気持ちを深めていけるように日頃から促していくことが効果的です。



Hello, Kenji. How was your summer vacation?



I went to Oga. I enjoyed camping. I ate curry and rice.



You ate curry and rice! What curry?

*Hotate curry.

You cooked?

Yes, yes! I like cooking. I can cook.

見・考

*Hotate curry, good?

Yes. Very good. Delicious.



見・考

④視点を基に言語面・内容面で振り返る。

*は、伝えたいが正しい英語が出てこなかったなので、日本語混じりで表現した場面です。